

弘前大学人文学部ボランティアセンター  
野田村ボランティア活動報告（8月24日）  
文責・教員事務局 作道信介



8月24日（水）は、学生・教員、市民、それぞれ13名ずつの26名の参加、学生事務局は南部、田上、教員事務局は作道でした。

弘前は朝から断続的にやや激しく雨が降っていました。これまでの経験では、メンバーに自称、晴れ男が多かったせいか、「弘前では雨でも野田では晴れ」というパターンが多かった。しかし、今回は、危ぶまれるような降り方でした。事実、道の駅おおのをすぎて、峠を越えても雨はやみません。「バスは走っているから窓に雨がたたきつけているように見えるだけだ」という声もありましたが、それをさしひいても活動は無理かもしれないと危惧しておりました。事前の野田村への電話でも、もしかしたら仕事がないかもしれないとのことで、それはバスのみんなにも伝えておりました。結果としては、しばらく待機のあと、雨中のかっぱを着ての作業となりました。



図 1 細い側溝の泥あげ



図 2 雨中の草取り

作業は3班（午後からは2班）になっておこないました。まず、午前中は、郵便局ちかくの住宅地の側溝の泥上げ、消防署裏の草取り、鳥居向かいの草取りでした。側溝の泥あげでは、細い側溝を小さなスコップで掃除する仕事でした。

泥上げは午前中で終わり、午後は草取り班に合流しました。消防署裏の草取りは降雨のため、沼のようになった区画での作業となりました。泥に足をとられたりして、草取りはしゃがんだ姿勢でおこなうので、足にきます。学生のなかには「これまでで一番きつかった」と感想を述べた人もいるほどでした。土のうをつみあげたあとは確実にきれいになっていました。



図 3 完成！！

私は一時、お話をしたいという方がいらしたので、中座をしました。着実に復興しつつある野田ですが、おひとりおひとりの復興には時間がかかることを感じました。

昼休みに集合しているとき、村長の小田祐土さんにお会いしました。ちょうど、旧図書館の二階でおこなっていた、復興祭の燈籠づくりを見に来られたところでした。復興祭の準備がちゃくちゃくと進んでいるようでした。壁に貼られたポスターには、のんちゃんねふたの写真が大きく掲載されておりました。

いつものように、昼食をいただき、引き続き草取りに専念しました。雨中の作業だったので、終わったときにはみんな、”どろんこハリー”のように服がよごれていました。NVNADの学生さん（長期滞在中）も姿をあらわし、ボランティアの広がりを感じられました。3時過ぎに撤収準備をして、4時には帰路につき、7時過ぎに無事帰還いたしました。

今回は雨中のボランティアで、かなり疲労と湿気に悩まされましたが、適度な休憩をはさんで、やりとげることができました。事務局のミスもありましたが、みなさんのご協力に感謝する次第です。